



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2018年(平成30年)11月25日号 No.1777

目次

■ 2018年1～9月のロシア経済と鉱工業生産	1
■ 『ロシアNIS調査月報』2018年12月号のご紹介	6
■ トピックス	7
三菱重工と双日がロシア物流ターミナル近代化／7	
第15回日本ロシア経済合同会議が開催／7	
タジキスタンでロゲンダムが稼働／7	

2018年1～9月のロシア経済と鉱工業生産

はじめに

ロシア連邦国家統計局より2018年1～9月のロシアの主要経済指標が発表されたので、本速報ではそれらを図表にまとめてお届けする。鉱工業生産については特に詳しく紹介していく。なお、2018年1～9月のロシアの貿易統計に関しては、ロシア連邦関税局のデータに基づき、後日より詳しくお伝えする予定である。

統計局発表の速報推計値によると(図表1)、2018年1～9月のGDP成長率は前年同期比で1.5%増となった。第1四半期プラス1.3%、第2四半期プラス1.9%と上半期は順調な成長が続いたが、第3四半期はプラス1.3%でやや鈍い成長となった。要因としては不作の影響が挙げられ、オレシキン経済発展大臣の発言によると、農業が0.5%、第3四半期のGDP成長率を引き下げている。

鉱工業部門の生産指数では(図表3)、鉱業は前年同期比で2.9%、製造業は3.3%増加し、鉱工業全体で3.0%の増加となった。品目別の内訳をみると(図表4)、天然ガスや石炭、化学分野、工作機械、乗用車、鉄道貨車などで成長がみられ、全体的に多くの品目で生産が増加した。

2018年1～9月の鉱工業生産を連邦管区別・地域別に見てみると(図表5)、地域別データではヤマロ・ネネツ自治管区が大きな伸びを示した。なお、プリアート共和国とザバイカル地方は11月よりシベリア連邦管区から極東連邦管区に転籍したが、1～9月の指標である本結果ではシベリア連邦管区としてカウントされている。

経済発展省は2018年のGDP成長率を前年比1.8%増と予測している。2019年については、付加価値税の税率引き上げ決定を受け、予測を0.1%引き下げて前年比1.3%増に修正した。ロシア中央銀行は2018年が前年比1.5～2%増、2019年は1.2～1.7%増と予測している。